

である。貞享の由來書に縁起がないと記してあるから、今存するものはその後の作であらう。

**アカクラジンジャ** 赤藏神社 ↓アカクラゴンゲン 赤藏権現。

**アカクラテラカツセン** 赤藏寺合戦 觀應二年九月の得江石王丸代長野彦三郎家光申軍忠狀に、『今年八月十八日吉見參河守殿、當國三引赤藏寺被楯籠間、桃井刑部大輔直信以下凶徒押寄當陣、終日戦也。凡及御方離儀之間、爲後攻將軍御方云々』と見える。赤藏寺は鹿島郡の赤藏権現である。

**アカクラヤマ** 赤倉山 羽咋郡原に在る。高さ三四二米。一に原御前ともいふ。永享元年日記に、『五月十四日飯尾美作守与能登國一宮氣多社雜筆相論同國赤藏山草木草。就武衛御申内々達上聞事。社訴之通急速可披露由自昌山匠作承之。使者イカウ主計允。』等とあるものはであらう。

**アカクラヤマ** 赤藏山 鹿島郡三引の西南に在る。高さ一七九米。山體輝石安山岩。

**アカサカ** 赤坂 羽咋郡館開に屬する小字。

**アカサカ** 赤坂 珠洲郡樞原に屬する小字。

**アカサキ** 赤崎 羽咋郡藤懸郷に屬する部落。赤崎の出崎といふ小岬がある。

**アカサキ** 赤崎 鹿島郡大田に屬する小字。

**アカサキ** 赤崎 鳳至郡谷内に屬する小字。

**アカザキ** 赤崎 鳳至郡七浦庄に屬する部落。能登名跡志に、『赤崎村、大澤より十九町あり。千右衛門とてよき百姓あり。にんじんの名物あり。』と記する。

**アカザキ** 赤崎 珠洲郡布浦の東に突出する岬角。

**アカザキノツツジ** 赤崎の躑躅 鳳至郡赤崎の小坂氏邸内にある。霧島種で、五月深紅の花を着ける。樹高現に六米であるが、雪害を受けざる前には九米に達して居た。數千幹叢生し、鬚蓋東西六米三・南北一二米二の楕圓形を作る。

**アカザタカハル** 赤座孝治 ↓ナガハラタカハル 永原孝治。

**アカザヨシイ** 赤座吉家 通稱久兵衛・備後守。初め織田信長に屬して、越前今庄を領し、次いで豊臣秀吉に屬した。天正十八年秀吉の北條氏政討伐に従軍して功を立て、關ヶ原の亂には西軍に屬し、半ばにして東軍に應じた。戦後封を除かれ、慶長六年前田利長に仕へて松任城の守將となり、祿七千石を賜はつたが、十一年三月越中大門川出水の際、乘馬にて涉り誤つて溺死した。吉家は連歌を嗜んで之を能くした。

**アカシカクアン** 明石格庵 加賀藩の老臣 長大隅守の醫。年少江戸に遊學し、英學を修めて頗る練熟の名があつた。後慶應三年七月幕府に聘せられ、海軍傳習所の通譯に任ぜられた。

**アカシサザエモン** 明石佐左衛門 初め孫平。享保十三年御馬乘に召出されて二十人扶持を領したが、寛延二年新知百石を受けて組外に列し、三年六十一歳を以て歿。子孫相繼いで藩に仕へた。

**アカシサダタカ** 明石定位 通稱儀左衛門。數右衛門。父數右衛門定賢の後を繼ぎて組外に列し、二十人扶持を受け、御馬方となり、天明六年新知百五十石を受け、文化五年五十石を加へ、文政四年致仕して靜叟と號し、料知十五人扶持を受けた。

**アカシエヤス** 明石季愷 通稱源兵衛・源藏。享保九年前田市正の與力として百五十石を受け、十五年三十石を加へ、前田重照の御抱守となり、延享四年七十石を増し、大小將に任じ、安永二年歿。子孫相繼いで藩に仕へた。

**アカシテン** 明石恬 諱は恬、字は玄機、號は昭齋。隨説の第四子であつた。江戸に往きて蘭學を坪井氏に學び、醫を業とし、又營て藩命を奉じて蘭書に載する鑄造大砲奇法を譯した。安政六年八月二十日四十一歳を以て歿。

**アカジマ** 赤島 鳳至郡の北方海上にある七つ島の一つ。享保の番上に、『赤島、高さ十五間程、長さ七十間程、幅三十間程。よもぎ、かや生申候。こしき島より海上五町程。』とある。名義は赤色の岩石から成る島であるによる。

**アカジマ** 赤島 珠洲郡片岩のうちの小字。

**アカジリ** 赤尻 加賀藩では頭役にあらざる平士以下足輕以上の者が藩侯に従うて旅行する時は、着衣を端折つて腰帶で締め、股引を用ふることを許さなかつた。それを加賀の赤尻とも赤脚ともいふた。

**アカスノモン** 不開門 金澤城外にあつた。本名松原口門。竹田市三郎の邸が神護寺の隣にあつた時、前田利常の女眷姫を預けて

置いたが、其の比晝夜門扉を閉ちて往來を禁じたので此の名を得たといふ。一説に、竹田市三郎の小松へ引越した後、春姫がその邸に移つたのであると。春姫の正保三年十一月本多正長に下嫁してから、晝は開き夜のみ閉づることになつた。

**アカスミ** 赤住 羽咋郡堀松庄に屬する部落。

**アカスミコウ** 赤住港 羽咋郡に在り、北に赤住崎が突出して灣形をなしてゐる。正保の番上に、港の長さ八十間幅三十間、深さ三尺四尺五尺の所もあつて、二三百石積以上の船は入るを得ぬとある。

**アカセ** 赤瀬 能美郡粟津郷に屬する部落。郷村名義抄に、此の村を流れる川の石が何れも赤いから名を得たとある。

**アカセノカヤ** 赤瀬の榎 能美郡赤瀬の部落から大杉川の右岸に沿うて二軒餘溯ると、路傍の西方に老榎がある。約二十七米の間にその六株が並んで、最大なるもの根元の周圍一米二、小なるもの九〇釐で、高さ凡べて二米餘を測る。能登には榎の大木があるが加賀では之を隨一とする。

**アガタ** 英田 河北郡の舊村名。三宮古記近年水引神人沙汰進分事條に『英田村紺一端』とある。英田村の名は今存せぬが、領家村に英田光濟寺といふのがあるから、領家もとの英田村であらう。

**アガタウチ** 英田氏 富樫氏春の二男滿家は、河北郡英田郷を領して英田小次郎と稱し、その子孫も亦英田氏を冒した。

**アガタカモジンジャ** 英太加茂神社 河北郡加茂に鎮座する。式内等舊社記に『英太加